

ヘルパンギーナの注意喚起について

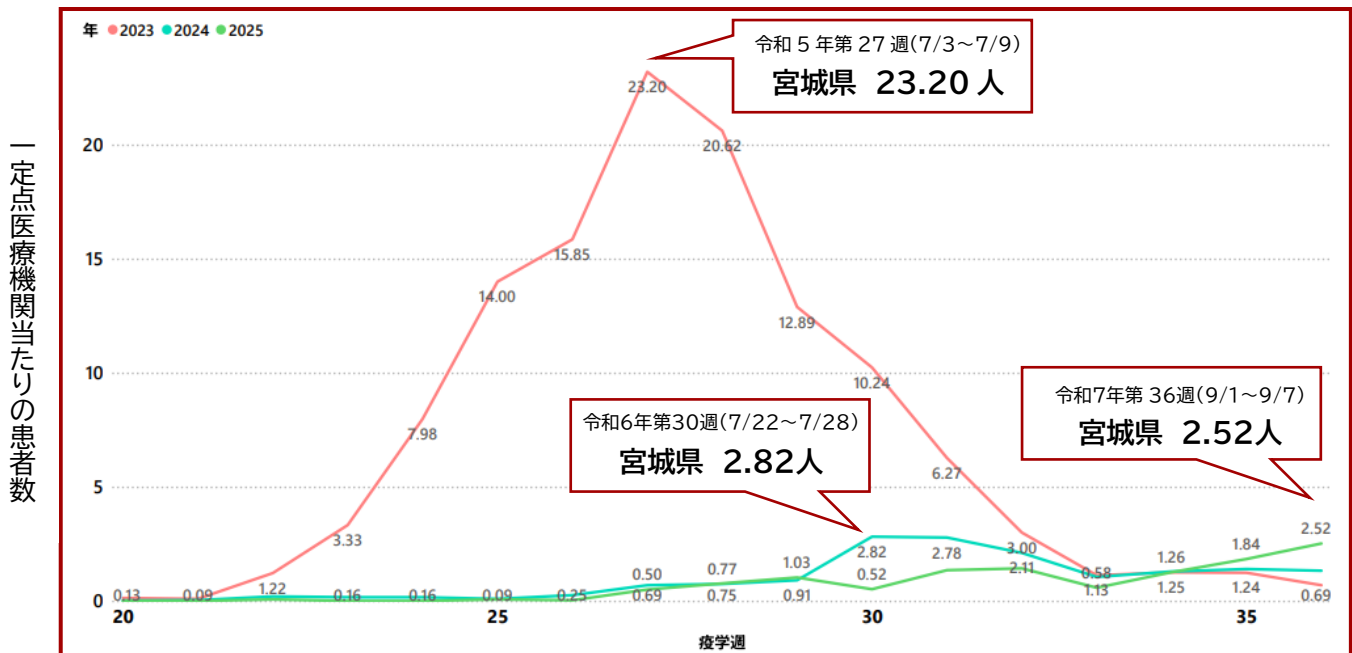
県内でヘルパンギーナの患者が増加しています。

県が実施している感染症発生動向調査の令和7年第35週及び36週において、大崎保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が令和6年度まで運用していた警報開始基準(6人)を超えています。

ヘルパンギーナは乳幼児を中心に夏季に流行がみられる感染症ですが、大人も感染することがあります。感染拡大を予防するため、子どもと接する可能性のある大人も、石けんと流水による手洗いと咳エチケットを徹底しましょう。

○ 各保健所管内における1定点医療機関当たりのヘルパンギーナ患者報告数

		保健所						宮城県(合計)
		仙南	塩釜	大崎	石巻	気仙沼	仙台	
疫学週	第32週	5.00人	1.50人	4.33人	0.67人	0.50人	0.80人	1.52人
	第33週	1.50人	0.33人	1.00人	0.67人	0.00人	0.53人	0.58人
	第34週	0.00人	1.17人	4.33人	0.33人	0.50人	1.13人	1.26人
	第35週	1.00人	0.83人	8.33人	0.00人	1.00人	1.53人	1.84人
	第36週	2.00人	2.50人	6.67人	0.67人	4.50人	1.87人	2.52人



～ヘルパンギーナの予防～

- 1 食事の前、排泄後、おむつ交換後等、石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 2 乳幼児がよく触れる場所やおもちゃなどの消毒をこまめに行いましょう。
- 3 家族や身近な方が感染した場合は、タオルの共用は避けましょう。
- 4 熱中症には十分注意した上で、場面に応じてマスクを正しく着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

～ヘルパンギーナとは～

原因：エンテロウイルス属（主にコクサッキーウイルス A 群）への感染です。

症状：突然の発熱（38～40℃）に続いて、のどの痛み、口の中に水疱（水ぶくれのような発疹）ができる。
口の中の痛みのため、食事や水分がとりにくくなり、脱水になることがあります。
多くの場合、予後は良好。まれに重症化（髄膜炎・心筋炎等）することがあります。

好発年齢：5歳以下の乳幼児に多いです。

潜伏期間：2～4日

感染経路：接触感染（便などで汚染された場所を触った手を口や鼻にもっていきことで感染します。）
飛沫感染（咳やくしゃみで飛散した飛沫の中のウイルスにより感染します。）

治療方法：症状を緩和する対症療法が行われます。

食事や水分がとりにくくなるため、柔らかく、刺激の少ない食事を工夫し、水分補給を心がけることが大切です。

頭痛や嘔吐、発熱等が続く場合は、主治医に相談しましょう。

その他：症状が消失した後も2～4週間はウイルスを含んだ便が排泄されることがあるため気をつけましょう。

○ 参考となるホームページ

国立健康危機管理研究機構「ヘルパンギーナ」

<https://id-info.jihs.go.jp/diseases/ha/herpangina/index.html>

宮城県結核・感染症情報センター

<https://www.pref.miyagi.jp/site/hokans/kansen-center.html>